

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

4月20日

NO、3

伸びる子

伸びる子には、いくつかの特徴があります。

丁寧な子、続ける子、素直な子、挑戦する子、こんな子が伸びます。

学級担任時代に懇談会の前日に封筒とプリントを子どもに配り、

「今から配るプリントを4つに丁寧に折ります。丁寧に折って封筒に入れなさい。」

プリントを4つに折らせ、封筒に入れて持って帰らせていました。

翌日の懇談で、

「昨日のプリントを思い出してください。端がきちんと重なっていましたか。2枚ともずれることなく折られていましたか。丁寧さとはこういうところに出ます。」

2枚というのが肝心です。1枚はできても、2枚目が雑になることがあります。

具体的に話すことを心がけていました。

続ける子は、努力できる子と読み替えることができます。

イチローが、

「僕が高校時代にやってきたことは、寝る前に毎日10分間素振りをしたことです。」

寝る前に10分間素振りをするのは誰でもできます。それを、毎日欠かさずに続けるのは、誰にでもできることではありません。

『努力とは、誰にでもできることを、誰もができないほど続けること』という言葉で以前何かで読みました。続けることができること、それ自体が素晴らしい才能とも言えます。

素直な子が伸びていく。多くの先人が同じように言います。

素直とは、何も盲目的に言われたことを実行することではありません。指摘されたことを、まずはやってみる。その上で、自分が納得できたことは続ける。面倒だ、しんどいと感じても、一度は実行してみる。素直な子は、先人の素晴らしい教を身につけることができます。

人にはどんな才能があるか分かりません。だから、学校で学ぶ価値があります。

挑戦することで、自分の才能を見出す可能性が高くなります。才能が見いだせなくとも、どんなことにでも挑戦する子のエネルギーはすばらしい。そんな子は、失敗しても、上手くいなくてもめげずに前に進む力があるからです。挑戦、それ自体に価値があります。

これから伸びていく子ども達、この4つに近い力を伸ばしてあげてください。子ども達の可能性は無限です。



Adobe Stock | #518766019

榎本小学校 校長 篠崎 勇